

『 最新の肝がん治療法 その1 』

肝臓川柳



『ソラフェニブ 肝がん発生 なくさねば』

(なくさねば・・・なくさねば・・・ネクサバール)

(一般名ソラフェニブ = 商品名:ネクサバール)

肝がんは、肺がん・大腸がん・胃がんなどとともに
日本における国民病と言われ、未だに年間4万人近い方が肝癌で亡くなっています。
これまで数々の治療法が開発されてきましたが、
今回から何回かに分けて《最新新しく可能となった肝癌の治療法》について御紹介します。

～～新規経口抗がん剤～～

┌これまで抗がん剤――

└がん細胞を直接破壊する細胞毒性を持つ抗がん剤が多数開発され使用されてきましたが、
└こと固形がん、特に肝がんに対しては有効なものはありませんでした。

┌最近の新しい作用による抗がん剤――

└がんの発生・進展に必要な分子メカニズム（シグナル）を
└標的としてブロックし、がんの発生・進展を抑える薬剤
いわゆる『分子標的剤』が登場し、肝がんに対しても、
『ソラフェニブ』という抗がん剤が使用できるようになりました。

2007年・・・

遠隔転移があったり、太い血管に浸潤するなどして
他の治療が出来ない予後不良の肝がん患者さんに
ソラフェニブを飲んでいただくだけで生存期間が3か月延長したという
シャープ試験の成績が海外から出て以来、世界中の話題になりました。

≫≫≫日本でも2009年5月より保険適応となり使用されています。

しかし・・・

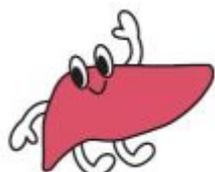
- ・ 予期せぬ副作用がおこったり
(手足症候群という手足の皮膚がむけてしまう副作用はきわめて特徴的です)、
- ・ 肝機能の悪い方には使用できない
- ・ 他の治療と併用が出来ない

などの制約があったり、まだ色々問題がありますが、
新しい肝がん治療の一つとして大変期待されています。当院でもこれまでに約14～15例使

用されています。

♪♪ さ～て来週の肝トピは ♪♪

(次回は、肝動脈塞栓術に使用する新規抗がん剤：ミリプラチンについてです)



これだけ覚えておけば損はない!

今 回 の ポ イ ン ト

新しい作用の抗がん剤として分子標的剤というものがあります。

肝がん治療においてその新しい抗がん剤『ソラフェニブ』が
保険適用になり、新しい肝がん治療として大変期待されています。

(文： 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)